



デイヴィッド・ルッドマンおよびシンディ・プリエト

開発貢献度指標(以下「CDI」)は、世界の最富裕国22ヶ国を、各国の貧困国に便益を図る政策への献身度に基づいて順位付けしたものです。CDIは、海外支援資金を単純に比較することでは判断できない、開発途上国にとって重要な7つの政策分野である、支援、貿易、投資、移民、環境、安全保障、および技術における、各国の取り組み努力を測定します。本報告書では、日本の2008年度CDI実績を検討します。

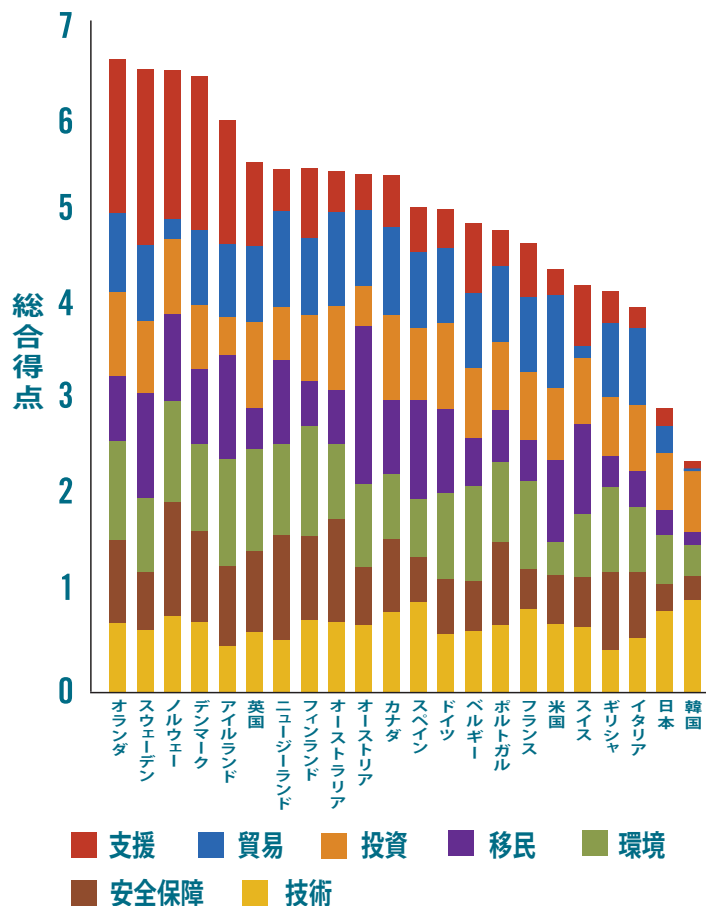
## 日本の2008年度CDI実績

- 2008年度総合順位: 21
- 2008年度総合得点: 3.0
- 2003年度総合順位: +0.8

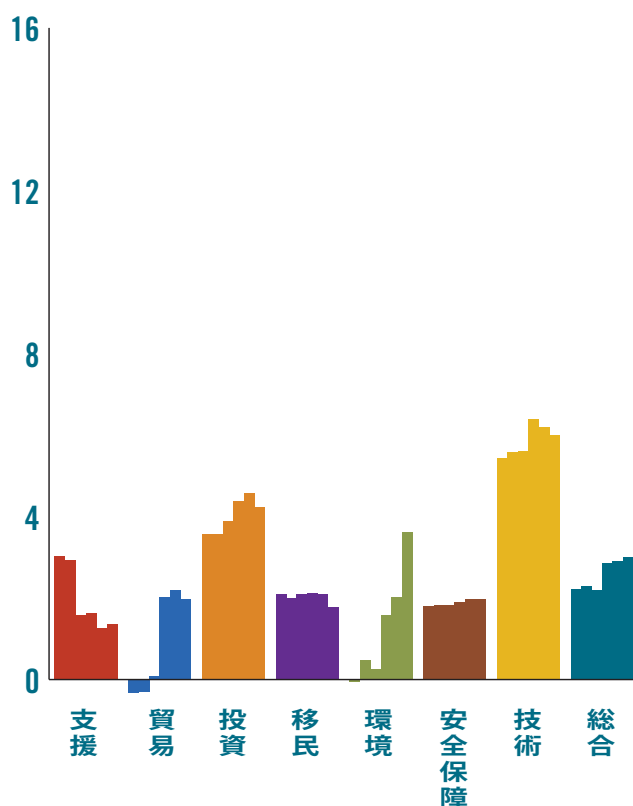
(2008年現在の手法を使用)

日本の2008年度における順位は第21位でした。日本の開発途上国からの輸出障壁は、CDI対象国中最も高く(主にコメの関税により引き上げられています)、国民所得に対する海外支援金の割合も最小グループに入っています。さらに、貧困諸国の観点からは環境に関する実績が乏しく、また、移民をほとんど受け入れていません。日本の最大の開発貢献は、研究開発に対する政府援助および貧困国への投資促進政策に見られます。

2008年度開発貢献度指標(CDI)



日本のCDI実績2003年度~2008年度



## 支援

支援の質は支援の量と同様に重要です。したがってCDIは、次の様々な質的要因で調整した、対GDP総合支援金を測定しています。CDIは、債務返済を差し引き、支援対象国に支援国の物品およびサービスのみで支出させる「タイアップ」支援に罰点を与え、貧困ながらも比較的腐敗度の低い対象国への支援に得点を与え、貧困国政府に多数の小規模プロジェクトで負担をかけることに罰点を与えます。

■ 得点: 1.4

■ 順位: 21

### 長所

- 全面的および部分的なタイアップ支援の比率が低い(7%、第11位)

### 短所

- 経済規模との比較において正味支援量が非常に少ない(0.14%、第20位)
- 税制が原因で民間慈善寄付金が少ない(対GDP比率順位: 第17位)
- プロジェクト数の拡大を促しているため、プロジェクトの平均規模が小さい(第16位)

## 貿易

国際貿易は、何世紀にもわたり経済発展の原動力となってきました。CDIは、開発途上国からの輸出に対する富裕国の貿易障壁を測定しています。

■ 得点: 2.0

■ 順位: 19

### 長所

- 農業助成金が少ない(輸入額の3.4%に相当する関税に等しい: 第2位)

### 短所

- 農産物商品にかかる関税が高い(輸入総額の124.9%、第21位)

## 投資

富裕国の貧困国への投資は、技術の移転、経営管理機能の改善、雇用の創出を可能にします。CDIには、開発途上国への健全な投資を支える政策に関するチェックリストが含まれます。

■ 得点: 4.2

■ 順位: 19

### 長所

- 国内外企業に、政治リスクに対する保険を提供している
- 海外で稼得された企業の利益に対する二重課税を防止するため、外国税額控除を採用している

### 短所

- 自国企業の海外での贈収賄、汚職行為の認定義務を怠っている
- 新興市場の年金基金への投資に制約を課している
- 資産運用資金の流出に対する支援を提供していない

## 移民

貧困国から富裕国への人の移動は、技能を持たない移民に職、収入、知識を提供します。これにより、海外に住む移民の本国送金による資金の流れを増大し、移民の帰国により技能の移転が達成されます。

■ 得点: 1.8

■ 順位: 21

### 長所

- 開発途上国からの外国人学生の割合が高い(79%、第7位)
- 外国人学生に課せられる学費は自国の学生の学費と同額である

### 短所

- 1990年代には、日本国内に在住する開発途上国からの技能を持たない移民の数が減少した(人口に対する比率順位: 第20位)
- 日本に入国する開発途上国からの移民数が少ない(人口に対する比率順位: 第20位)
- 人道的危機に際しての難民受け入れ分担が少ない(第21位)

# 環境

富裕国は希少資源を不均衡に利用している一方、貧困国は地球温暖化と生態環境悪化に対して、最も脆弱な立場にあります。したがってCDIは、地球の気候、漁業、およびバイオ・ダイバーシティ（生物多様性）に関する各国の政策の影響力を測定します。

■ 得点: 3.6

■ 順位: 20

## 長所

- 国民1人当たり温室効果ガス排出量が少ない（二酸化炭素同等物の排出量: 9.7トン、第10位）

## 短所

- 1995年から2005年までの温室効果ガス排出量の増加率が、GDP成長率にほぼ等しい（平均年間成長率/GDP: -0.9%、第15位）
- ガソリン税率が低い（1リットル当たり0.50ドル、第18位）
- 熱帯雨林材の輸入量が大きい（1人当たり28.43ドル、第22位）

# 安全保障

安全保障は開発にとって必須条件であることから、CDIは、国際的に認可された平和維持活動や強制執行的な人道介入への貢献に得点を与え、世界の海上航路に対する軍事防衛に得点を与え、貧困政府および非民主主義政府への兵器輸出に罰点を与えます。

■ 得点: 2.0

■ 順位: 21

## 長所

- 貧困政府および非民主主義政府への兵器輸出が皆無（対GDP比率順位: 第1位）

## 短所

- 過去10年間における、国際的に認可された平和維持、人道介入への資金および人的貢献度が低い（対GDP比貢献度順位: 第21位）
- 国際貿易に欠かせない世界の海上航路をほとんど防護していない（対GDP比貢献度順位: 第16位）

# 技術

富裕国は、新技術の創出および普及を通じて開発に貢献しています。CDIは、研究開発に対する政府支援を測定し、新技術の貧困国への拡散を制限する厳格な知的所有権制度に罰点を与えることにより、この分野を評価しています。

■ 得点: 6.0

■ 順位: 4

## 長所

- 企業の研究開発に対する税補助金（税控除）の比率が高い（第9位）
- 開発途上国への革新の流入を制約する可能性のある「TRIPS-Plus」措置を、二国間自由貿易協定に採択することを一切試みていない

## 短所

- 植物品種および動物品種への特許付与を許可している
- ソフトウェア・プログラムへの特許付与を許可している
- 著作権を取得したデジタル・コンテンツの暗号を解読できる、迂回禁止対象技術に対して厳重な制限を課している

## 背景情報報告書および寄稿者

デイヴィッド・ルッドマン著の『The Commitment to Development Index: 2008 Edition』（ウェブサイト: [www.cgdev.org/cdi](http://www.cgdev.org/cdi)）をご覧ください。このウェブサイトには、次の各政策分野に関する背景情報報告書も掲載されています。海外支援: デイヴィッド・ルッドマン、貿易: ウィリアム・R・クライン、投資: セオドア・H・モーラン、移民: エリザベス・グリーコおよびキンバリー・A・ハミルトン、環境: エイミー・カッサラおよびダニエル・ブレイジャー、安全保障: マイケル・E・オハンロンおよびアドリアナ・リン・デ・アルバカーキ、技術: キース・マスカス

## 2008 年度開発貢献度指標 (CDI)

国名	順位	支援	貿易	投資	移民	環境	安全保障	技術	総合得点	2003 年度以降の増減
オランダ	1	11.4	5.9	6.1	4.9	7.2	6.1	5.1	6.7	0.0
スウェーデン	2	13.0	5.6	5.2	7.8	5.4	4.3	4.6	6.6	+0.3
ノルウェー	2	11.0	1.4	5.6	6.4	7.5	8.3	5.6	6.6	+0.3
デンマーク	4	11.3	5.5	4.8	5.5	6.5	6.7	5.2	6.5	-0.6
アイルランド	5	9.2	5.4	2.8	7.7	7.9	5.9	3.4	6.0	+0.7
英国	6	6.2	5.6	6.3	3.1	7.5	6.0	4.4	5.6	+0.1
ニュージーランド	7	3.2	7.1	3.9	6.1	6.8	7.7	3.8	5.5	-0.4
フィンランド	7	5.1	5.7	4.9	3.2	8.2	6.2	5.3	5.5	+0.4
オーストラリア	7	3.1	6.9	6.1	4.0	5.6	7.5	5.2	5.5	-0.2
オーストリア	7	2.7	5.5	3.0	11.6	6.2	4.2	5.0	5.5	0.0
カナダ	11	3.8	6.5	6.3	5.5	4.7	5.4	5.9	5.4	+0.2
スペイン	12	3.3	5.6	5.3	7.3	4.3	3.3	6.6	5.1	+0.7
ドイツ	12	2.9	5.5	6.3	6.2	6.4	4.0	4.3	5.1	0.0
ベルギー	14	5.1	5.5	5.2	3.6	6.9	3.7	4.5	4.9	+0.3
ポルトガル	14	2.6	5.6	5.0	3.9	5.8	6.2	4.9	4.9	+0.4
フランス	16	4.0	5.6	5.0	3.0	6.6	2.9	6.2	4.7	0.0
米国	17	1.9	6.8	5.3	6.0	2.5	3.6	5.0	4.5	+0.3
スイス	18	4.5	1.0	4.8	6.6	4.6	3.6	4.8	4.3	-0.4
ギリシャ	19	2.3	5.5	4.4	2.3	6.3	5.7	3.1	4.2	+0.5
イタリア	20	1.5	5.7	4.8	2.7	4.7	4.9	4.0	4.1	0.0
日本	21	1.4	2.0	4.2	1.8	3.6	2.0	6.0	3.0	+0.8
韓国	22	0.6	0.0	4.6	0.9	2.3	1.7	6.8	2.4	該当せず

この表は、CDI 対象 22 ヶ国を、各国の 7 つの政策分野別の得点を示し、順位付けしたものです。一国の総合得点は、7 政策分野での得点の平均値です。最も右の列は、CDI が 2003 年に開始されて以来の各国の総合得点の増減を、2008 年度の手法を用いて、示したものです。

CGD のウェブサイト ([www.cgdev.org/cdi](http://www.cgdev.org/cdi)) には、CDI 対象 22 ヶ国の各国に関する報告書、ならびにグラフ、地図、スプレッドシート、背景報告書が掲載されています。

開発貢献度指数は、綿密な研究と政策立案者への活発な関与を通じて米国および他の富裕国の政策変更を奨励することにより世界の貧困および不平等を軽減することに取り組む独立系シンクタンクである世界開発センター (Center for Global Development、以下「CGD」) が設計しました。

開発貢献度指標の設計者であるデイヴィッド・ロッドマンは、CGD のリサーチフェローです。

**Center for Global Development**

世界の繁栄のための独自の研究と実務的なアイデア

[www.cgdev.org](http://www.cgdev.org)

電話: 202.416.0700

